



No.142

2022.1.28

兵庫県立神戸商業高校

図書館

新着図書紹介

寒い日が続いています。体調管理に気をつけて、無理に外出せず、家で読書をするなどゆっくり過ごしてはどうでしょうか。

*冬休み前に借りた本はすぐに返却してください。

nombiri



『明日、世界がこのままだったら』

行成 薫【著】

目覚めると、世界に二人きりとなっていたサチとワタル。不意に現れた管理人を自称する女に、ここは生と死の「狭間の世界」だと告げられる。

二人の肉体は、今まさに死を迎えようとしている、と一。

『自転しながら公転する』

山本 文緒【著】

結婚、仕事、親の介護、全部やらなきゃダメですか？ぐるぐる思い惑いながら幸せを求める 32 歳の都を描く、共感度 100% 小説。

『世界「失敗」製品図鑑 - 「攻めた失敗」20例でわかる成功への近道』

荒木 博行【著】

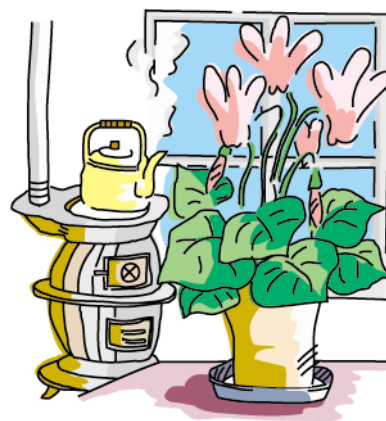
すごい会社も派手に「失敗」していた！アップル、グーグル、アマゾン、任天堂、ソニー、トヨタ、etc……グローバル企業 20 社の「失敗」事例をイラストと共に徹底解説。ベストセラー『世界「倒

産」図鑑』の著者が贈る、トップ企業の「失敗」をあなただの「成功」に変えるケーススタディ集。

『ミッキーマウスの憂鬱ふたたび』

松岡 圭祐【著】

東京ディズニーランドで清掃のアルバイトをしている、永江環奈。ある日、彼女はテーマパークの顔として活躍するアンバサダーになれることを知り、挑戦を決意する。知られざる〈バックステージ〉を舞台に、仕事、家族、恋、そして働く者の誇りを描く、最高の青春小説。



『ギネス世界記録〈2022〉』

レベンソン, ショディ【著】

今年のギネス世界記録は環境問題、ポップカルチャーに注目。世界中の驚異的な記録を型破りなビジュアルとともに紹介！2つの世界記録を達成した野口聡一宇宙飛行士のインタビューも掲載。

『月と日の后』

冲方 丁【著】

「わたしがこの子の母になる」——内向的な少女は、いかにして平安王朝の“国母”となったか。藤原道長の娘にして、一条天皇の后、藤原彰子の生涯を描いた感動の歴史長編。



『プリンス・チャーミングと呼ばれた王子たち』

ヒーラー、クリストファー【著】

シンデレラ、白雪姫、ラプンツェル、眠り姫。憧れの王子4人の物語。ダメ王子4人は“プリンス同盟”を結成し、姫と仲間と国のために、魔女との戦いに挑む。笑いと涙の後日譚、全く新しい物語が誕生!

『月の番人』 トム・ゴールド/古屋美登里【著】

「ニューヨーク・タイムズ」紙のベストセラー・リストに選出された、世界で大人気のマンガ家による不思議で愛おしくて切ないSFマンガの新境地!



『ペリリュー ー楽園のゲルニカー 〈1〉』

武田一義/平塚柁緒【著】

昭和19年、夏。太平洋戦争末期のペリリュー島に漫画家志望の兵士、田丸はいた。そこはサンゴ礁の海に囲まれ、美しい森に覆われた楽園。そして日米合わせて5万人の兵士が殺し合う狂気の戦場。

【その他の新着図書】

クラウドで育てる次世代型情報活用能力 Google for Education による新しい学び	堀田龍也	教育
はじめての授業のデジタルトランスフォーメーション	高橋純	教育

教育DXで「未来の教室」をつくらう	浅野大介	教育
神戸発展異論	寺岡 寛	経済
プラナリア	山本 文緒	文学
恋歌	朝井まかて	文学
狼と香辛料 18~23	支倉凍砂	ライトノベル
応天の門 6~10	灰原葉	コミックス
妖怪アパートの幽雅な日常 24	香月, 日輪	コミックス
呪術廻戦 18/熱	芥見下々	コミックス

□ばらり選書 2学年 野村先生

タイトル 『塩狩峠』

三浦 綾子 著

人生とは

人生での様々な出来事から、キリスト教信者となった主人公・永野信夫が、暴走した列車を止めるため、乗客全員の命と引き換えに自らの命を落とした、見返りを求めない、愛の物語である。この物語は、常に、人生とは何かを読者に問い続ける。物語の冒頭に、この作品のテーマとも言える聖書の一節が紹介されている。「一粒の麦、地に落ちて死なずば、唯一つにて在らん、もし死なば、多くの果と結ぶべし。」直訳すると、「もし一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただの一粒である。もし、死んだのなら、それは豊かに実を結ぶようになる。」これは、自らの死をもって他者を救うことほど、大きな愛はない、というキリスト教の「自己犠牲」の精神を表す。このメッセージは、クライマックスの信夫の犠牲の他にも、物語のあらゆる場面で、伝わってくる。「人間はいつ死ぬものか自分の死期を予知することはできない。ここにあらためて言い残すほどのことはわたしにはない。日常の生活すべてこれ遺言と思ってもらいたい。」「お互いにこのくり返しのかかない一生を、自分の生命を燃やして生きていこう。」何気ない日常全てが、一人ひとりの人生と人間性を形づくり、さらには、後世にその生命のバトンを受け継いでいく。ときには、そのくらいの意識で、自分の人生を生きてみても良いのではないか。そんな熱い思いをこの物語から感じ取ることができた。宗教色が少し強い作品であるが、様々な観点から人生の生き方を再度考えさせられる作品でもあるように思う。